

## 活動の概要

2014 年度の主な活動は、産業文化研究センター（RCIC）の運営、学内研究プロジェクトの継続、学外連携プロジェクトの実施、そして個人研究活動であった。今年度ソフトピア地区への移転に伴い、新しい環境でのスムーズな大学運営、快適な学生生活のための環境整備を重視し、執行部メンバーとして事務局と協力しながらさまざまな問題や課題の解決に注力した年でもあった。また、移転の一つの大きな契機とし、新しいイアマスの方角性を模索しながら中期計画の策定をすすめた。RCIC では中期目標に基づき、産業や地域連携の推進、卒業生との連携強化、RCIC としての新しい取組みの検討を行なった。

研究に関しては、昨年以上に地域や産業との連携が増え、多様なプロジェクトを担当することとなったが、これまで以上に多くの地域の企業や団体と関わることができ、大垣や東海地域で活躍する卒業生たちとの関係も強めることができた。

---

## 学内での活動

### 1 産業文化研究センター

今年度は、ソフトピア地区への移転に伴い、昨年以上に産業や地域連携の案件が増加、過去数年分に匹敵するほどの連携が展開された。地域や産業連携の推進や担当教員の支援を行なう一方で、成果報告に重点を置きながら、ソフトピア地区への訴求にも力を入れた。

移転により施設環境が大きく変わり、教室、会議室、プロジェクト室、ギャラリー、作業室などの環境整備が急務となった。新たな環境で発生する問題に対し RCIC スタッフたちが率先して解決に関わり、比較的スムーズに教育研究環境を整えることができた。ソフトピアジャパン地区および周辺環境で教育や研究活動に使用できる場所や施設について、授業やプロジェクト内で実践的に試行を繰り返しながら活用可能な環境の確認を行なった。

本学卒業生との連携強化を目的としたネットワーク構築を目指し、オープンハウスでは「IAMAS Independence Meet up!」と題した OB 向けイベントを実施した。これは、卒業生や在校生からも好評であり、次年度以降も行なう予定である。

2014 年度は Ogaki Mini Maker Faire の開催に始まり、世界的ベストセラー『137 億年の物語～宇宙が始まってから今日までの全歴史』の著者クリストファー・ロイド氏を迎えた IAMAS 公開シンポジウム「137 億年間のイノベーションが産んだもの そしてこれから」の企画開催、RCA・IAMAS・



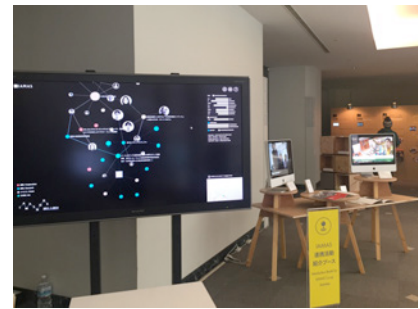
IAMAS 公開シンポジウムの様子



RCA のレイ教授を迎えたワークショップ

KDU・MAUによるデザインワークショップ「THINGS THAT MOVE」の運営と報告書出版、入江経一教授の公開レクチャー『デザインをめぐる夜話』の企画と叢書制作、2013年度ビエンナーレカタログ制作など、イベントの企画運営や出版業務が例年以上に多かった。卒展においても、データビジュアライゼーションを用いた表現など RCIC 独自企画の充実を図った。

RCIC のこれまでの地域や産業との連携活動は、今年度を実施された本学の大学認定評価において高く評価された。



卒展での RCIC 展示

## 2 学内プロジェクト

昨年に引き続き、2つのプロジェクト（美濃のいえ、地域・メディア・鉄道プロジェクト）を代表として担当し、2つのプロジェクト（ちび電、編集）に共同研究者として関わった。美濃のいえは、より地域を巻き込んだ活動が増え、新しい展開につなげることができた。アートフルタウン大垣でも、大垣を対象とした新しい表現（大垣色見本帖）をプロジェクトとして展示し地域に貢献した。鉄道プロジェクトでは、3回のクラブトレインを樽見鉄道で実施し、老若男女が楽しめる新しいインタラクションの体験を作り出すことができ、結果として、新たなローカル鉄道活用の需要へつなげることができた。美濃のいえと鉄道プロジェクトは、県紙や全国紙、ケーブル TV などメディアで取り上げられることが多く、認知と関心を高めることに貢献できた。



美濃のいえの庭の石窯を使った活動

ちび電プロジェクトは研究最終年であり、総括として、「LIFE AND THINGS: 2030 INVENTIONAL FICTIONS」と題した展示会を Art Chiyoda 3331 と東京藝術大学において3月に2週間ほど開催した。東京での展示を通して、来場者から良い反応と刺激を得ることができた。編集プロジェクトでは、学生たちが地元の人たちとの関わりを通して地域をベースにした創造への関心を持ち、修士作品のアイデアにつながる機会にもなった。



子ども向けクリスマストレイン

## 3 連携プロジェクト

2014年度は、昨年以上に外部連携プロジェクトが多く、うち3つのプロジェクトを担当した。ネコ市ネコ座実行委員会は、猫の殺処分ゼロを目指した啓蒙活動を目的として、岐阜の保護猫カフェ Neco Republic と IAMAS の教員スタッフ有志らにより立ち上げられた。ロゴやキャラクターなどのデザイン、映像といった部分を担当し、9月には大垣の元気はつらつ市でのネコ市ネコ座を開催し、岐阜県知事や大垣市長もイベントに参加された。続いて、岐阜駅前広場で日本初の Internet Cat Film Festival の開催し、非常に多くの人たちに捨て猫や殺処分の問題について啓蒙することができた。3月には、不妊手術と地域猫をテーマにしたネコ市ネコ座を京都で開催した。それぞれ地元の自治体、NPO や市民グループ、企業、住民、メディアなど多くの人た



岐阜駅前で開催した Cat Film Festival

ちを巻き込みながら、クラウドファンディングによって集められた資金により運営するという新しいソーシャルイベントの試みでもあった。

年末には、大垣商店街を中心とする芭蕉イルミネーション実行委員会からの依頼で、ヤナゲン本店の壁面を使って市民のメッセージをその場で投影させる大垣ドローイングパーティーを企画・開催した。その場で描かれたメッセージが特設会場でDJが流す音楽に合わせて踊る映像に驚き、写真を撮る参加者も多かった。本企画は、FMぎふや大垣ケーブルといった地域メディア、商店や地元企業など、多くの連携と協力によって実現された。

羽島まちかげは、羽島市政60周年を記念したアートイベントとして企画され、羽島文化協会が連携しながら学生が制作を行なった。8月から翌年2月の本展示までの半年間に数回のフィールドワーク、羽島サマーフェスティバルやなまず祭りでのワークショップやミニ展示などを実施し、長期的に地域と関わりながら最終的な展示物を制作し、多くの羽島の人たちに関心を持ってもらうことができた。



ヤナゲン前特設会場で開催した大垣 Drawing



羽島まちかげには多くの人たちが来場

---

## 学外での研究活動

### 1 災害とコミュニティラジオ研究会

2011年3月に起きた東日本大震災直後より、「災害とコミュニティラジオ研究会」(代表)を立ち上げ、被災地のコミュニティ放送局と臨時災害放送局の調査研究を実施、これまで国内外の学会やシンポジウムで成果を報告してきた。(トヨタ財団助成研究)その最終報告書として「小さなラジオ局とコミュニティの再生—3.11から962日の記録」を5月に大隅書店より出版した。

### 2 小さな離島とコミュニティラジオの調査

2011年より共同研究者として参加している「日本型コミュニティ放送の成立条件と持続可能な運営の規定要因」(科研基盤B)で、昨年度に引き続き、小さな離島とコミュニティラジオ局をテーマに、奄美大島、徳之島、沖永良部島でフィールド調査を実施した。調査の一部は学会等で報告した。

### 3 巨大災害とコミュニティラジオ研究

東日本大震災の調査から得た知見を元に、東海3県(静岡、愛知、三重)のコミュニティFM23局と20の自治体を対象に防災の対する取組みについてヒアリング調査を実施した。(放送文化基金助成、個人研究)。結果については、2015年度に情報通信学会などでの報告を予定している。



#### 4 学会発表や著書

災害とコミュニティラジオ研究会「小さなラジオ局とコミュニティの再生—3.11 から 962 日の記録」大隅書店、2014 年 5 月

金山智子「奄美群島のコミュニティラジオ～文化装置的役割に注目して」情報科学芸術大学院大学紀要第 6 巻,pp.157-163.

金山智子「小さな森の入口—導入科目『モチーフワーク』の意味」情報科学芸術大学院大学紀要第 6 巻,pp.13-19.

Tomoko Kanayama “Community Radio as Cultural Function for the Amami Islands of Japan” 国際島嶼学会第 13 回世界大会(台湾), 2014

パネル「ネコ市ネコ座：地域フェス型ソーシャル・ムーブメントの可能性」(査読付) 日本 NPO 学会 17 回年次大会(東京) 2015 年 3 月

シンポジウム「コミュニティメディア その公共性とジャーナリズム」(京都) 2015 年 3 月

#### 5 研究助成

- (1) 公益財団法人小川科学技術財団 (共同研究)
- (2) 「日本型コミュニティ放送の成立条件と持続可能な運営の規定要因」(科研基盤 B) (共同研究)
- (3) 公益財団法人放送文化基金 (個人研究)

#### 6 メディア取材や出演

311 に関連して、徳之島ミニ FM や FM 奄美、FM 一宮などで番組出演。また、被災地のコミュニティ FM に関して読売新聞や朝日新聞から取材。

#### 7 その他 社会活動など

公益財団法人ブランジヤパン 理事

特定非営利活動法人地域魅力 監事